



鉢木昔語

乾



18
1798
卷



沖本首語卷之貳

一 仙野家由徳生曆之本

沖本首語卷之貳

一 田沼家由徳并佐後上田沼百代之本

一 田沼家由徳并佐後上田沼百代之本

沖本首語卷之三

一 仙野由徳相違并佐野氏憤也之本

藤野潔氏遺愛記

明治三十四年四月辛巳
藤野潔氏

小洲系ありき...
式文武子...
坊坊小寺...
よりりり...
旧俗...
主事...

有德...
有德...
有德...
有德...
有德...
有德...
有德...
有德...

家...
父...
下...
作...
中...
宗...
石...
石...
石...
石...
石...

内にて平兵衛共々一ツ連居られし忠告のい
し成程中魚の作高口は魚海柄は中
控柄はさし来由中にていそいそと
あるは統比上二通りの控柄物所
は世の由也いふも魚中平兵衛は口は又子は
若らまう一巻平兵衛を忠告するは
左まう一巻平兵衛を忠告するは
と對面して一巻平兵衛は又子ま
志はれはさるまう一巻平兵衛は
りれはさるまう一巻平兵衛は
の少平兵衛おえ一巻平兵衛は

若らまうのいそいそと私の系家子
ハ平兵衛一巻平兵衛は又子ま
ふしはさるまう一巻平兵衛は
出子信平は所々々々の新
給平兵衛は又子ま
帆書信平は又子ま
はらまう一巻平兵衛は
のいそいそと

四信をまう一巻平兵衛は又子ま
永く一巻平兵衛は又子ま
元和五年

右の紙は... 江戸... 徳川... 寛政... 天明... 天保... 文政... 弘化... 嘉永... 安政... 文久... 明治... 大正... 昭和... 平成... 令和...

右の紙は... 江戸... 徳川... 寛政... 天明... 天保... 文政... 弘化... 嘉永... 安政... 文久... 明治... 大正... 昭和... 平成... 令和...

沖本首巻

江戸中流相違 兼 徳川氏慣習

一 深洋の殺害の利涸多し... 寛政の徳川... 天明の徳川... 天保の徳川... 文政の徳川... 弘化の徳川... 嘉永の徳川... 安政の徳川... 文久の徳川... 明治の徳川... 大正の徳川... 昭和の徳川... 平成の徳川... 令和の徳川...

年三月廿五日新書院川相模守書
予先か見たり小治り車りりり
其の本をよむに二行光依の字の少ゆり念に想
そのまじりくこの川州院所尼生殿に
舟舟地りりよこの今の新那目貴人の何れ
家彫之河ハ南東候之治方々電の生
経以法南交如之能解の目貴ハ文倫相
周風りり漢ハ南東候之相は月是年創
し希り心者我侯院川相模守能万
松何を言ふに河原守其の白井
江上り心是年創元河井石止守
山崎門下守其の河原守其の

是に付何れを言ふに三之中
之付何れを言ふに三之中
故何れを言ふと振向れを言ふ
かなり
いん
例
下
必
は
後

柳舟ししりて路みんを新のり中無り年なり
 長生をよむや無ありとくちあつてお
 長生をよむや無ありとくちあつてお
 ちあふやあふ進んををこしひの無を
 との評判あり又年を大書をも作何系
 一人ありそをひの夜今書よりかひりや
 如しの高書をを多あつていれそ年高ふ
 とや入相成進てそ年の舞ぬ何事ぞや
 海をよむや無ありとくちあつてお
 あきると此の作舟の夜今書よりかひり
 作舟の夜今書よりかひりなれは
 をよりかひりなれは

神本首語卷二の

四浪之巻は也 柳舟

一 度小居育たむ之巻は創り色也 柳舟は
 糸帯のたのま年あけに編り合ふ所
 の柳舟をとりぬりは之巻はひのひの
 て何の書へもあつたり又そ付中
 糸帯も柳舟はなれりそそそそ
 のありそそそそ付中 柳舟は
 上をよむや無ありとくちあつてお
 上をよむや無ありとくちあつてお
 上をよむや無ありとくちあつてお
 柳舟はなれりそそそそ付中 柳舟は
 事 柳舟はなれりそそそそ付中 柳舟は

木竹土女さいぢよみ久ひさ根ね取とり由ゆ二に流りゅうのわ
 をおま洗せんひひ用ようのの仕し仕しかかここ牛うしをを牧まかししるる
 沼うづををここととららるるくくままをを洗せんひひ
 もも浸ひぶぶてて女にむすめ物もの洗せんひひししるる
 幸さいひひのの久ひさ根ね取とり物もの洗せんひひししるる
 女にむすめ乃の洗せんひひことこととと祈いのり願がねししるる
 成なりりり幸さいひひのの切き取とり服ふくのの綿わたをを洗せんひひ
 へへとと洗せんひひししるる利り

浅草橋のついでに
 下町
 新町

